

さつき第2防災会の皆様

さつき第2防災会
本部長 村松 賢一

「おうちで防災訓練」のお知らせとお願い

昨年11月に予定していた防災訓練は新型コロナウイルスのため本年3月に延期し、様子を見ることにしました。一時は「中止」も考えましたが、委員の間から「大地震はいつ起きるか分からない。年に一度は訓練をやるべきだ」という声があがったためです。年明けからは、通常形で実施するのは無理と判断し、一転、「コロナ禍の下でも可能な防災訓練」を目指すことにしました。行き着いたのが在宅のまま参加できる「おうちで防災訓練」です。大きな柱は三つあります。

①大地震を想定した初動時対応（役員中心）

・安否確認訓練

コロナ対策上、役員と居住者の対面を避け、“無事”は「黄色いタオル」の掲示を以て判断します。

・トイレ排水管の通水確認訓練

排水管に破損や詰まりが無いかを確認するテストを行います。

②発災時のとるべき行動を考える「防災チェック」（全居住者）

とっさの場合、これだけは心がけてほしいという項目を精選し、チェックマークをつけることで疑似訓練をしていただくという趣向です。訓練の当日、地震発生を想定した時刻に、ご家族で取り組んでいただければと思います。

③日頃の備えを確認する「防災アンケート」（全居住者、要提出）

マンションでは、震度7のような激震でない限り、在宅避難が望ましいとされます。となると問われるのが水や食料などの備蓄です。アンケートに答えながら、あらためて、何を、どのくらい準備すればよいかお考えいただきたいと思います。

余談ですが、事前に麻生区役所危機管理担当に相談したところ、こうした内容であれば立派な防災訓練として認められ、参加者次第（黄色いタオルの掲示数やアンケートの回収具合）で、助成金の対象になり得るとの言質を得ています。

よろしくご協力くださいますようお願いいたします。

以上

資料 2

「おうちで防災訓練」プログラム

1. 日時：2021年3月21日（日） 10時～12時
2. 場所：自宅他
3. 内容：

【時間】	【役員】	【会員】
9時55分	防災訓練予告放送（3号棟：柳井4号棟：河合）	
10時	①全員プレイロットに集合 ②訓練開始の挨拶 ・村松（プレイロット） ・春日（3号棟A階段ベランダ側の庭）	①ベランダから参加 →メガホンの聞こえ具合をチェック
10時10分	大地震（震度5強）発生！	
	②構内放送（3号棟：柳井、4号棟：河合） ・大地震発生 ・身の安全、黄色いタオル掲示の呼びかけ ・「防災チェック」への取り組み要請	②放送をインタホンで聞き取る →聞こえ具合をチェック ③黄色いタオルを掲示
	③/④「防災チェック」に「レ」を入れながら、「とっさの場合の行動」を確認	
10時30分	④安否確認（第一次） 役員は、それぞれの階段の黄色いタオルを確認し、安否確認表に記入後、集会所へ	⑤階段消火器を取り外し、使用手順、有効期限を確認する（事前でも可）
10時40分	⑤集会所へ集合 ・各階段の安否情報を報告	⑥防災アンケート作成（事前記入可）、提出 →黄色いタオルと合わせ玄関ドアに差し込む
10時50分	⑥安否確認（第二次） ・黄色いタオルの不掲示宅を訪ね、詳しい状況を聞き取る（エア） ・防災アンケートを回収 ・トイレ排水への注意喚起シートをポストイン	⑦お隣りが不掲示なら一声掛ける ⑧トイレシールの添付文書を読み、シールを貼る
11時05分	⑦集会所へ戻る ・アンケート回収状況を報告	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>コロナ対策上、以上のプロセスで役員が皆さんと対面したり、直接言葉を交わすことはしません。</p> </div>
11時10分	⑧自家発電機試運転 ⑨トイレ排水管の点検 （詳細は別紙に）	
11時55分	⑩「トイレの正常及び訓練終了」宣言（構内放送） ・春日→3号棟 ・村松→4号棟	

以上

皆さんにやっていただくこと

1. 10時になったらベランダへ

大地震の際、停電で構内放送が使えないと、皆さんに情報やお願いなどをお知らせするには、プレイロットからメガホンで直接呼びかけるしかありません。その聞こえ具合を確認する意味もありますので、10時になったら、是非、ベランダから開会式にご参加下さい。

➡聞こえ具合は防災アンケートⅠに記入して下さい。

2. 構内放送をインタホンを通して聞く

電気が通っている場合、情報や注意事項などは構内放送でお伝えします。

10時15分になったら、大地震発生を想定して「緊急放送」を実施しますので、インタホンをオンにして聞き取ってください。

➡聞こえ具合を防災アンケートⅠに記入してください。

3. 黄色いタオルをドアに掲示する

発災後、防災会の第一番の仕事は住民の安否確認です。「家族全員無事」の場合は黄色いタオルをドアに掛けてください。不掲示のお宅は「異常あり」と判断し詳しい事情をお尋ねすることになります。

4. 安否確認にご協力を

安否確認は防災会役員だけでは間に合いません。お隣りに黄色いタオルが出ていない場合はインタホンで一声掛けて下さると助かります。

5. 階段の火災警報器を外して使用法を確認する

さつき2では、各階段に消火器が設置されています。いざという時にまごつかないように、この機会に取り外して操作法をご確認下さい。

※4号棟の場合は、格子の中に格納されていますので（右写真参照）、
「取り外し」を一度は経験しておいていただきたいと思います。



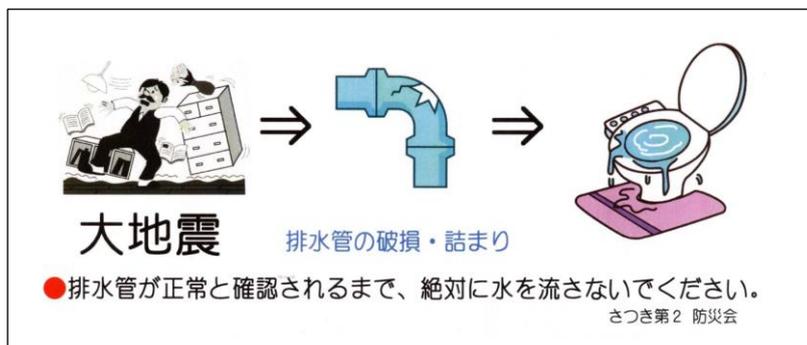
6. 防災チェックに取り組む（提出する必要はありません）

7. 防災アンケート（Ⅰ、Ⅱ）に記入、提出する

黄色いタオルに添え、玄関ドアに差し込んでください。（右写真参照）

8. トイレ排水への注意喚起シールを

当日、各戸に配布しますのでトイレ内に貼ってください。（下写真）



役員にやっていたくこと (敬称略)

【事前】

1. 排水桝配置図（資料③、3.7に配布）と照らし合わせながら、ご自分の階段のトイレ排水管が通じている汚水桝を見つけ、印をつけておく。
2. 防災アンケートに記入しておく。※防災チェックは出来れば当日取り組む。

【当日】

1. 集会所に集合（9.50）
 - ・ヘルメット、軍手、安否確認表を受け取る。
 - ・春日、中原、伴野、小柴は3号棟A階段のベランダ側庭に移動。
その他の役員及びお手伝いくださる吉波理事長はプレイロットに移動。
2. 放送①「防災訓練の予告」（9.55）
 - ・柳井→3号棟
 - ・河合→4号棟
3. 開会挨拶（10.00）
 - ・春日→3号棟A階段居住者
 - ・村松→3号棟B～D階段、4号棟居住者
4. 放送②「防災訓練開始、住民への呼びかけ」（10.10）
 - ・柳井→3号棟
 - ・河合→4号棟
5. 防災チェック（10.10～10.30）

一旦家に戻り、「放送」を合図に防災チェックに取り組む。
6. 放送③ 安否確認（第一次）を行うことを知らせる
7. 第一次安否確認（～10.45）

各役員は防災チェックを終え次第、ご自分の階段の黄色いタオルをチェックしがてら集会所へ向かう。
8. 放送④「訓練の途中経過及び第二次安否確認を始める」旨を知らせる（10.50）

「これから安否不明宅の調査に向かう」（“黄色いタオル不掲示のお隣りに一声”）
9. 第二次安否確認（10.50～）
 - ・黄色いタオル不掲示宅訪問（エア）
 - ・アンケート回収 ※未提出の場合は、後日の提出を要請するメモをポスティング
 - ・トイレシールをポスティング
10. 放送⑤「自家発電機の試運転、トイレ排水管の点検」を知らせる

11. 「自家発電機試運転&トイレ排水管の点検」

(1) 場所

①自家発電機の試運転：集会所前（全員）

②トイレ排水管の点検：

・ 3号棟C階段下（3号棟役員）

・ 3号棟D階段下（4号棟役員）

(2) スケジュール

①11.10～11.30（20'） ②11.35～11.55（20'）

(3) 自家発電機試運転（11.10～11.30）

1) 使用法の説明及び実演（春日）※「使い方ガイド」を全員に配布（3.11）

2) 体験

3号棟役員、4号棟役員の中から代表（3人1組）が実際に動かしてみる

(4) トイレ排水管の通水テスト（11.35～11.55）

1) 移動

* 3号棟役員→3号棟へ移動（リーダー：清野）

* 4号棟役員→4号棟へ移動（リーダー：村松）

2) 汚水桝の位置を確認

汚水桝配置図（3.11配布）を見ながら、3号棟（計7か所）、4号棟（8か所）の汚水桝の位置を確認

3) 通水テスト

①事前（前日）に、協力者（3-1005：新貝さん及び3-908：高橋さん）宅にバスクリンを持参し、「予定時刻が近づいたらお湯で溶いておくよう」頼む

②C-05桝、D-08桝の蓋をバールで開ける（それぞれ二人掛かりで）

③リーダーが協力者にバスクリン水の流下を電話で要請

④密にならないよう注意し、順番に汚水桝を観察、着色水の流下を確認

⑤②とは別の役員が汚水桝の蓋を元に戻す



(前)



(後)

(5) 終了後現地解散

(6) トイレ排水管の正常宣言及び防災訓練の終了を宣言（11.55）

* 春日→3号棟

* 村松→4号棟

〔注〕

※1 リーダーは大声を出さずに済むようハンズフリーマイクを使う。

※2 バールが一組（2本）しかないなので、あと2本探す。

①防災チェック

～家に居るときに大地震が起きたら～

- ◆「防災チェック」は、在宅防災訓練の一環として位置付けています。
少しでもリアルに感じていただくため、3月21日、大地震（震度5強）発生想定時刻（10時15分）に、ご家族で取り組んで下さい。
- ◆本用紙は提出する必要はありません。

予告なく（心の準備ができない内に）突然襲ってくる大地震には誰しもパニックに陥るものですが、あらかじめ震度の違いによる被害状況やいくつかの基本的な心構えを頭に入れておくとかなり冷静に対処できるはずです。ご存知の項目が多いと思いますが、この機会にもう一度、確認して下さい。目を通されたら、文頭の□の中にレ点を入れて下さい。

1. 震度による被害の違いを知る（「備える。かわさき - 保存版-」2014）

【震度5弱】

- 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと思う。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

【震度5強】

- 物につかまらなると歩くことが難しい。
- 固定していない家具が倒れることがある。

【震度6弱】

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることも。

【震度6強】

- 這わないと動くことができない。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。

2. 押さえておきたいポイント

- 「耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる」のは震度7の場合です（「備える。かわさき - 保存版-」）。それ以下であれば「マンションの場合、建物の中にいるのが一番安全」（区役所危機管理課）と言われます。慌てて外に飛び出すことなく落ち着いて行動しましょう。

① まずは我が身の安全

同じ震度でもマンションの上階ほど揺れが大きく、家具などが移動したり倒れたりすることでケガをする恐れが高くなります。

- 丈夫な机やテーブルの下に身を隠す。
- クッションや枕などで落下物から頭を守る。
- 机やクッションが近くにない場合は、身をかがめ両腕で頭を守る。



- 住戸内の安全な（物が落ちてこない、倒れてこない）場所に退避する。

→普段から、家の中でどこが安全か、家族で話し合っておきましょう。

- はだしで歩き回らない。割れたガラスを踏んで怪我をするとその後の行動が大きく制約される。室内履きの靴を用意しておくとうい。

② 火元の確認

- 大きく揺れている間は無理して火の始末をしない。熱湯が飛び出し火傷の原因となる。→揺れが収まったら火元を確認し、コンロなどの火を消す。
- ガス使用時に大きな揺れを感じるとマイコンメーターが働きガスを遮断する。
- 万一出火し、天井まで届くなど大きくなったら火災警報器を押し、外に出て大声で火災の発生を知らせる。



③ 出口の確保

- 揺れが収まったら、玄関やベランダの窓を開け逃げ道を確保する。

④ 隣り同士で声掛け

- 家族の無事を確認したら、隣り近所で声を掛け合って安否を確かめる。

3.トイレ対策

大地震によって建物の污水管が破損するおそれがあります。うっかりトイレの水を流したために下階で污水があふれ出し大きな被害を招いた例があります。そこで、国交省では「安全が確認されるまでトイレの水は流さないように」と呼びかけています。



(国交省 HP より。次頁も)



この他、建物外の下水道管が損傷を受け詰まりを生じると汚水が建物内に逆流することも考えられます。

そこで、最後のチェックです。

- 大地震の後では、安全が確認されるまでトイレの水は流さない。

以上

② 防災アンケート

※号棟と階数のみご記入下さい。

()号棟 ()階

◆パートⅠ：聞こえ度

いざという時に、情報やお願い事を素早くきちんとお伝えすることは防災対策の要と言ってもよい重要な課題です。そこで今回の防災訓練では、初めて二つのことを試してみました。

一つは、停電時でも使える「メガホン」の実用性です。プレロットから発してどのくらいの範囲にまで届くものか。

二つ目は、電気が通っていることが条件ですが、構内放送をインタホンで聞き取るという方法の有用性です。もともと厚いコンクリート壁で隔てられている上に、気密性の高い二重窓に交換したため、これまで以上に構内放送が聞き取りにくくなっています。そこで、「何か言っているようだ」と思ったらインタホンをオンにすることが既にポプラ街区で推奨されています。

以上、二つの聞こえ具合を是非教えていただきたいと思います。

1. メガホン

Q：メガホンでお話した内容は聞き取れましたか。あてはまるものに○をつけて下さい。(次も同様)

①よく聞き取れた ②大体聞き取れた ③よく聞き取れなかった

2. インタホン

Q：インタホンを通して放送した内容は聞き取れましたか。

①よく聞き取れた ②大体聞き取れた ③よく聞き取れなかった

◆パートⅡ：日ごろから大地震に備える

大地震が起きると、電気、水道、ガスなどのライフラインが停止し物流も途絶えるなど、私達の生活は大変不便になることが予想されます。そこで市では、「市外から救援物資が届くまでの約**3日間**（物資が十分に行き届くまでの**7日間**）は、**各家庭がそれぞれの備蓄により、生活することが必要**」（川崎市健康福祉局「食品の備蓄のすすめ」2020）だと言っています。

以下、「飲料水」、「食料品」、それに「生活用品」の備蓄について、ご家庭の現状やお考えをお聞かせください。今後の啓発活動の参考にいたします。

※因みに、さつき第2防災会では水・食料の備蓄は行っていません。

1. 飲料水の備蓄

*人が生きていくためには、**一人一日3リットル**の飲み水が必要だと言われます。その水が断水した場合を考えるとどのような備えが必要でしょうか。

市では、地震などの災害で断水が起きた場合に応急的に給水を行う「災害時応急給水拠点」を各地に整備しています。

*私たちの近所には次の2か所があります。

(1)王禅寺公園北側交差点の三井住友銀行百合ヶ丘出張所前

(2)王禅寺中央中学校と王禅寺中央小学校との境界付近（バス通り側ではなくグラウンド側）です。そこでしょうか。

Q1：上記の給水拠点には各自がポリタンクなどを持って水をもらいに行くこととなりますが、それはご承知ですか。当てはまる番号に○を付けてください。

①はい ②いいえ

Q2：市では給水拠点に来られない高齢者などのために「可能な限り給水車による運搬給水で対応する」としてはいますが、仮に給水車がマンションに来た場合、もらった水を自宅までエレベーターを使わずに運ぶことはできますか。

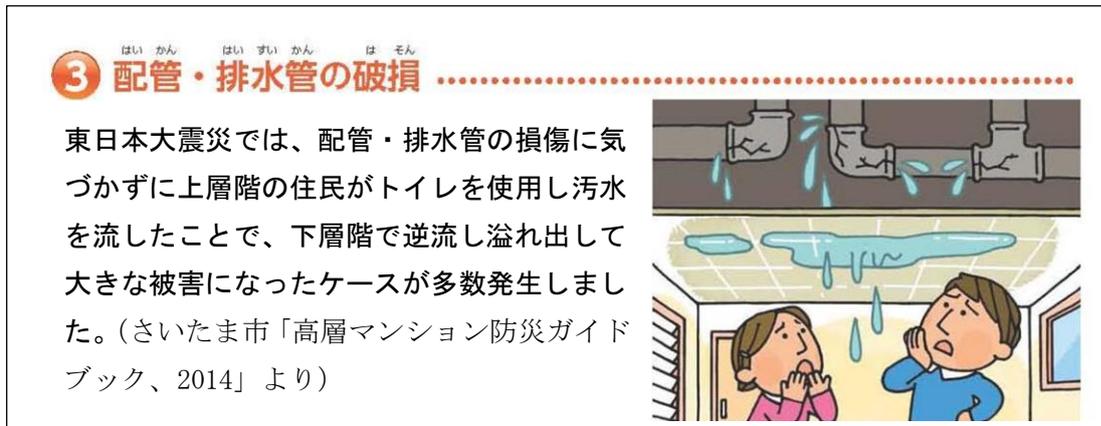
①はい ②いいえ

Q3：1人一日3リットルの飲料水が必要として、家族全体でどのくらい備蓄していますか。

資料 7

さつき第2防災会では、いざという時に思い出せるように、「地震時のトイレ排水に関する注意喚起シール」を作成しましたのでお届けします。トイレ内の目立つところに貼っていただければと思います。

◆大地震の後、なぜトイレの排水を流してはいけないのか。



近年、この「地震時のトイレ排水」の問題がマンション居住者の間で徐々に認識されるようになり、港区内のマンション住民を対象にした調査では「大地震発生時に不安に感じる」として「トイレが利用できない」との回答が5割以上と最も高くなったとのことです。(「港区マンション震災対策ハンドブック (2018)」)。

◆排水管が正常であることを誰がどう確認するのか。

2019年、さつき第2防災会が開催した「防災出前講座」で、麻生区役所危機管理担当の中島健太氏は、防災会が出来る簡便な確認方法として次のようなやり方を紹介してくれました。

- ・最上階のトイレから「玉のようなもの」を流してみる。
- ・地上の汚水桝を開けて、その球が流れてくるかどうか見る。
- ・球が無事出て来れば、一応、排水管の破損や詰まりは無いと判断してよい。

これに示唆を得て、当防災会では、球の代わりに入浴剤(バスクリンなど)を流す実験を何度か行い、その有効性を確かめましたので、いざという時はその方法を採用つもりです。

◆「異常なし」の周知方法

異常が無いことが分かった場合は、「防災会旗」(写真参照)をしかるべき場所に掲示する他、構内放送や各階段の掲示板でもその旨お知らせします。

尚、着色水の流下を確認できなかつたり、確認できても壁や天井にシミが発生したような場合は専門業者(川崎市のホームページに各区ごとの業者リストが掲載されている)に診断、修理を依頼する必要がありますが時間がかかることを覚悟しなければなりません。

皆様に非常用トイレの備蓄をお願いするゆえんです。



以上